

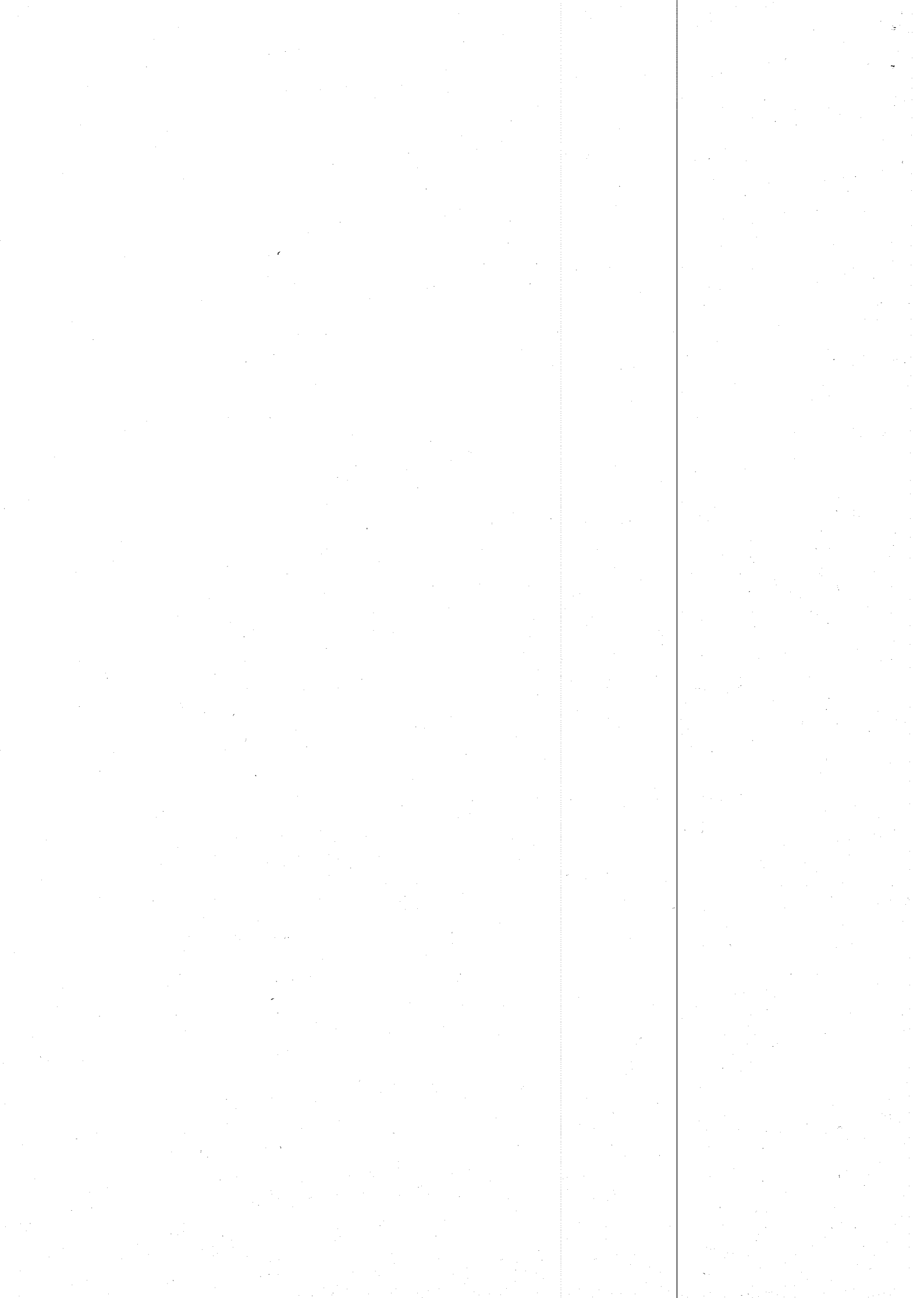
平成30年度

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会

総会資料

目 次

平成29年度役員	1
◆ 第1号議案 「平成29年度事業報告」	2
◆ 第2号議案 「平成29年度決算報告及び監査報告」	3
◆ 第3号議案 「平成30年度役員(案)」	4
◆ 第4号議案 「平成30年度事業計画(案)」	5
◆ 第5号議案 「平成30年度予算(案)」	6
後援会会則	7
平成30年度 学校行事一覧	10
「治療的乗馬」研究集会2018発表資料 馬のいる学校～開校7年、今までとこれから～	11



平成29年度 役員

【役員】

会 長	野邊 利正	永田建設株式会社 取締役会長
副会長	木暮 士	若宮商事株式会社 代表取締役
副会長	松葉 利男	永田紙業株式会社 取締役総務部長
副会長	津久井大雄	株式会社酒井材木店 代表取締役
副会長	根岸 里花	深谷はばたき特別支援学校 PTA 会長

【理事】

理 事	飯塚 昇	株式会社飯塚土建 代表取締役
理 事	川邊 洋一	株式会社ケントアイ 代表取締役学院長
理 事	鹿倉 朋宏	深谷はばたき特別支援学校 校長

【監事】

監 事	笠原 克己	株式会社エムケー 取締役会長
監 事	大澤 充	深谷はばたき特別支援学校 教頭

【顧問】

顧 問	大谷 宗司	総務省 行政相談委員
-----	-------	------------

【事務局】

事務局長	坪井 陽子	深谷はばたき特別支援学校 事務長
	楠奥 佳二	深谷はばたき特別支援学校 教頭

平成29年度 事業報告

1 児童生徒の育成、福祉の増進

- ・浦和レッズハートフルサッカーキャラバン費用補助
9月9日 本校グラウンドにて開催
- ・埼玉県障害者駅伝大会参加費補助
1月27日 熊谷スポーツ文化公園にて開催
- ・運動部対外試合遠征費補助
7月28日 第15回関東特別支援学校バスケットボール交流戦大会
8月17日 埼玉県バスケットボール交流大会

2 教職員の資質向上

(1) 教職員研修への補助

- ・校内研修会講師謝礼補助
8月25日 立教大学教授 大石幸二 様
8月28日 日本リハビリテーション専門学校 佐々木清子 様
6月9日・1月30日 創価大学教育学部教授 藤原義博 様

(2) 専門技術指導

- ・治療的乗馬研究集会（主催：NPO法人 日本治療的乗馬協会）参加費補助
2月24日 実践研究報告を本校職員が発表
テーマ「特別支援学校におけるポニー飼育と教育への導入
～開校7年目の取り組み～」

3 教育環境の整備、充実

- ・ポニー調教費補助
代々木ポニー公園におけるポニー再調教の謝礼及び職員派遣費用補助
- ・除雪用スコップ購入費補助

4 進路対策支援

- ・校内実習用資材提供（永田紙業株式会社様よりリサイクル資材の提供）
- ・新規開設福祉事業所等の情報提供

5 知的障害教育に関する普及・啓発への協力

- ・文化祭、運動会の参観

平成29年度埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会決算書

【収入の部】

(単位:円)

科目	当初予算額	決算額	比較増減額	摘要
1 会費	300,000	361,000	▲61,000	団体会員会費 5,000円×58口 個人会員1口1,000円×71口
2 雑収入	5	20,004	▲19,999	預金利子 賛助金
3 繰越金	389,247	389,247	0	
計	689,252	770,251	80,999	

【支出の部】

(単位:円)

科目	当初予算額	流用増減額	予算現額	決算額	残額	摘要
1 総務費	30,000	0	30,000	14,742	10,258	
消耗品費	5,000	0	5,000	324	4,676	
通信費	20,000	0	15,000	13,266	1,734	総会資料送料
会議費	5,000	0	5,000	1,152	3,848	会議用お茶代
2 事業費	600,000	0	600,000	330,871	269,129	
行事費	70,000	0	70,000	40,226	29,774	各種行事参加負担金等
生徒旅費	150,000	0	150,000	100,000	50,000	部活動等生徒遠征費補助
研究助成費	200,000	0	200,000	87,552	112,448	講師謝金等
進路対策費	30,000	0	30,000	0	30,000	
環境整備費	150,000	0	150,000	103,093	46,907	ポ二一環境整備 除雪等
3 雑費	5,000		5,000	2,916	2,084	
4 予備費	36,727		59,252	0	59,252	
計	671,727	0	689,252	348,529	340,723	

(単位:円)

収入総額	支出総額	残額	
770,251	348,529	421,722	次年度へ繰越

上記のとおり報告します。

平成30年6月28日

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会 会長 野邊 利正

監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

平成30年5月21日

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会 監事 笠原 克己

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会 監事 大澤 充

第3号議案

平成30年度 役員 (案)

【役員】

会 長	野邊 利正	永田建設株式会社	取締役会長
副会長	木暮 士	若宮商事株式会社	代表取締役
副会長	松葉 利男	永田紙業株式会社	取締役総務部長
副会長	津久井大雄	株式会社酒井材木店	代表取締役
副会長	石川 幸衛	深谷はばたき特別支援学校	PTA 会長

【理事】

理 事	飯塚 昇	株式会社飯塚土建	代表取締役
理 事	川邊 洋一	株式会社ケントアイ	代表取締役学院長
理 事	金室 紀夫	深谷はばたき特別支援学校	校長

【監事】

監 事	笠原 克己	株式会社エムケー	取締役会長
監 事	大澤 充	深谷はばたき特別支援学校	教頭

【顧問】

顧 問	大谷 宗司	総務省	行政相談委員
-----	-------	-----	--------

【事務局】

事務局長	坪井 陽子	深谷はばたき特別支援学校	事務長
	楠奥 佳二	深谷はばたき特別支援学校	教頭

平成30年度 事業計画（案）

- 1 児童生徒の育成、福祉の増進
 - ・ 学校行事等における物資の提供
 - ・ 部活動運営補助（ユニフォーム、校外試合生徒旅費等）
- 2 教職員の資質向上
 - ・ 教職員研修への補助（大学教授等専門家の招聘費補助）
 - ・ ポニーに関する専門技術指導（研究会参加費補助）
- 3 教育環境の整備、充実
 - ・ 教育環境整備への協力（除雪作業費）
 - ・ ポニー調教費等補助（再調教謝礼、職員派遣費用補助）
- 4 進路対策支援
 - ・ 地域の企業情報等の提供（現場実習受け入れ企業の紹介）
 - ・ 学習教材の提供（校内実習等の教材）
- 5 知的障害教育に関する普及・啓発への協力
 - ・ 文化祭や運動会等の参観
 - ・ 本校への理解啓発の推進

第5号議案

平成30年度深谷はばたき特別支援学校後援会予算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要
1 会 費	300,000	300,000	0	団体会員会費 5,000円×50口 個人会員会費 1,000円×50口
2 雑 収 入	5	5	0	
3 繰 越 金	421,722	389,247	32,475	前年度より繰越
計	721,727	689,252	32,475	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要
1 総 務 費	35,000	30,000	5,000	
消 耗 品 費	10,000	5,000	5,000	
通 信 費	20,000	20,000	0	
会 議 費	5,000	5,000	0	
2 事 業 費	650,000	600,000	50,000	
行 事 費	120,000	70,000	50,000	サッカー教室ほか行事助成費
生 徒 旅 費	100,000	150,000	▲ 50,000	全国・関東大会等出場生徒旅費
研 究 助 成 費	200,000	200,000	0	職員研修助成費
進 路 対 策 費	30,000	30,000	0	
環 境 整 備 費	200,000	150,000	50,000	教育環境整備費
3 雑 費	5,000	5,000	0	会費振込手数料
4 予 備 費	31,727	54,252	▲ 22,525	
計	721,727	689,252	32,475	

上記のとおり提出します。

平成30年 6月28日

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会

会長 野邊 利正

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会会則

(名称)

第1条 本会は、埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を埼玉県立深谷はばたき特別支援学校に置く。

(目的)

第3条 本会は、埼玉県立深谷はばたき特別支援学校における教育の充実に寄与するとともに、教育環境の整備等に係る協力をとおして、特別支援教育の充実及び振興に貢献することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 本校児童生徒の育成、福祉の増進に関すること
- 2 知的障害教育に関する普及、啓発に関すること
- 3 教育環境の整備、充実に関すること
- 4 教職員の資質向上に関すること
- 5 その他、設立目的を達成するために必要なこと

(会員)

第5条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同する個人又は団体とする。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- 1 会長 1名
- 2 副会長 2～4名
- 3 理事 若干名
- 4 監事 2名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は次のとおりとする。

- 1 会長及び副会長は役員会で推薦し、総会において承認を得る。
- 2 理事及び監事は会長の推薦に基づき、総会において選出する。
なお、本会を効果的に運営するため、理事には校長を含むものとする。

(役員任期)

第8条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

(役員任務)

第9条 役員任務は次のとおりとする。

- 1 会長は本会を代表し、会務を総理し、総会及び役員会を招集する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
- 3 理事は本会の運営及び事業に関する事項を審議する。
- 4 監事は本会の会計を監査する。

(顧問)

第10条 本会に顧問を置くことができる。

なお、顧問は、役員会の推薦に基づき総会において承認を得る。

(会議)

第11条 会議は総会及び役員会とし、会長が招集し、その議長を務める。

(総会)

第12条 総会は年1回開催し次の事項を審議する。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

1 役員を選出

2 本会の運営及び事業に関する事項の審議

(役員会)

第13条 役員会は必要に応じて開催し、会務の審議にあたる。

(会費)

第14条 本会の会費は次のとおりとする。

1 個人会員 年会費 1口 1,000円

2 団体会員 年会費 1口 5,000円

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

第16条 本会の会計規程は別に定める。

附則

本会則は別に定めるものの他、平成23年7月14日から施行する。

附則

本会則は別に定めるものの他、平成29年7月7日から施行する。

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会会計規程

(目的)

第1条 この規程は、埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会会則第16条に基づき、埼玉県立深谷はばたき特別支援学校後援会の会計に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(会計の運営原則)

第2条 本会の資産については明瞭に記録されなければならない。

(予算執行の権限と委任)

第3条 会長は、予算執行の権限の全部又は一部を校長に委任することができる。

(会計事務担当者)

第4条 本会の会計事務担当者は、埼玉県立深谷はばたき特別支援学校の職員があたり、校長の承認を得て会長が委嘱する。

(会計事務担当者の職務)

第5条 会計事務担当者は、次に掲げる事務を担当する。

- 1 現金の出納、資産の保管並びに帳簿、証拠書類等の整理、保存を行うこと。
- 2 収受した会費を遅滞なく指定された金融機関に預け入れること。

(支出命令)

第6条 支出は、予算執行兼支出命令書により会長又は予算執行の権限が委任されている者の決裁を受けて支出手続きを行うものとし、この書類に支出を要する内訳を記載した書類などを貼付するものとする。

(支払)

第7条 会計事務担当者は経費の支払いに当たって、正当な債権者であることを確認した上で、請求金額を現金で支払い、領収書を徴さなければならない。

(帳簿)

第8条 本会の会計は、次の帳簿を備え整理する。

- 1 会費收受簿
- 2 現金出納簿
- 3 その他会計管理に必要な帳簿

(その他)

第9条 預金通帳の名義人は校長とする。

(附則)

- 1 この規程は、平成23年7月14日から施行する。

平成30年度 主な学校行事一覧

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校

月	日	対象学年	行事名	場所
4	9	全学部	1学期始業式	本校体育館
	10	全学部	入学式	本校体育館
	27	小学部高学年	遠足	川の博物館
	27	中学部	遠足	武蔵丘陵森林公園
5	16	全学部	P T A総会	本校
	22	高等部	特体連陸上大会	熊谷陸上競技場
	26	全学部	運動会	本校
6	4~8	全学部	学校公開	本校
	6	全学部	第1回学校説明会	本校
	7	中学部	交流会	川本中学校
	15	全学部	開校記念日	
	18~29	高等部2・3年	現場実習	各企業・作業所
	14	小学部低学年	交流会(川本南小)	本校
	19	小学部高学年	交流会(川本北小)	本校
	22	小学部3年	生活体験学習	本校
7	10~11	中学部1・2年	校外宿泊学習	小川げんきプラザ
	12	高等部1年	職場見学	各企業・作業所
	20	全学部	1学期終業式	本校
9	3	全学部	2学期始業式	本校体育館
		全学部	引き渡し訓練	本校
	11~12	高等部2年	校外宿泊学習	神川げんきプラザ
	13~14	小学部4年	校内宿泊学習	本校
	19~21	高等部3年	修学旅行	沖縄方面
	25	小学部低学年	遠足	こども動物自然公園
	27~28	高等部1年	校外宿泊学習	長瀬げんきプラザ
27~28	小学部6年	修学旅行	浅草方面	
10	3~5	中学部3年	修学旅行	大阪方面
	4~5	小学部5年	校外宿泊学習	長瀬げんきプラザ
	12	小学部低学年	交流会(川本南小)	川本南小
		小学部高学年	交流会(川本北小)	川本北小
	15~26	高等部	産業現場等における実習	各企業・作業所
	16	中学部	交流会(川本中学校)	本校
11	10/29~11/2	全学部	学校公開	本校
	12		第2回学校評議員会・学校評価懇話会	本校
	17	全学部	文化祭	本校
	18	高等部	みんな幸せ・共生社会 県民のつどい	行田市文化センター
	27	高等部	特体連サッカー大会	
	22	高等部	入学選考説明会	本校
12	12	小中	就学・転学に係る相談会	本校
	21	全学部	2学期終業式	本校体育館
1	9	全学部	3学期始業式	本校体育館
		中学部3年	産業現場等における実習	各企業・作業所
	21~25	全学部	学校公開	本校
2	9	高等部	入学者選考	本校
			第3回学校評議員会・学校評価懇話会	本校
	6・16	高等部	特体連バスケボール大会	
3	8	高等部	卒業証書授与式	本校体育館
	15	小・中学部	卒業証書授与式	本校体育館
	22	全学部	修了式	本校体育館

特別支援学校におけるポニー飼育と教育への導入 ～開校7年目の取り組み～

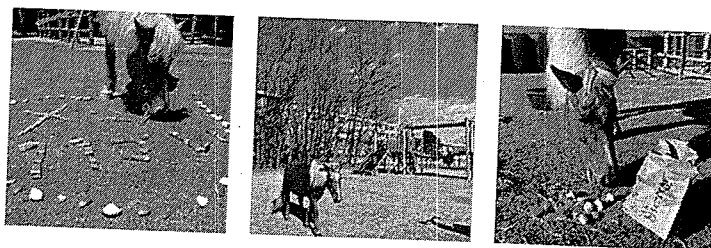
北住早希、高木佑樹、矢田麻美
(埼玉県立深谷はばたき特別支援学校 ポニー共育推進委員会)

はじめに

本校は知的障害のある子どもたちを対象とした、埼玉県北部に位置する開校7年目の特別支援学校である。小学部、中学部、高等部が一つの校舎で学び、児童生徒271名が在籍している。本校は県内で唯一ポニーを飼育している学校である。開校当初から飼育しており、様々な専門家のサポートやアドバイスを得ながら、現在に至っている。管理職を含む教員で組織される「ポニー共育推進委員会」が先頭に立ってポニーの飼育体制や飼育環境を整え、日々の飼育は全校で取り組んでいる。

1. 馬について

- 1頭(名前:メロン 北海道生まれ)
- 11歳 牝馬
- 体高:125cm(ポニー)



2. ポニーを取り巻く教職員、専門家

教職員の中に馬の専門家はいないが、開校から7年を経て乗馬経験者や研修を受講して知識を深めた者、ポニーがいると聞いて異動してくる者など、メロンに関心を寄せる教職員は年々増加している。また、本校に長年勤務する教職員の中には、メロンの異変にいち早く気づく者もいて、健康管理も多くの目で行えるようになってきた。また、各専門家の方々の継続的な協力を得て、メロンの健康管理や調教、教員向けの研修など、様々な面で一定の質を保った飼育環境を整備することができている。

3. 特別支援学校にポニーがいる意味を考える

我々教職員は、開校当初より教育的効果を見込んでポニーの飼育を行っているが、これまで様々な課題に直面し、苦心を重ねてきた。それは、かかわりのある専門家の方々も同様であろう。むしろ、専門家であるからこそ、より頭を悩ませることが多かったのではないかと推察する。しかし、実にいろいろな形で指導や助言をいただいた。こういった方々の尽力なしには、7年間もポニーの飼育を継続することは不可能であった。そのように多くの方々に支えられてきた7年を振り返るなかで、特別支援学校にポニーが存在する価値を実感できた場面が何度もあった。本報告では「特別支援学校にポニーがいる意味」を感じることができた事例をいくつか紹介したい。

○児童生徒の心の育ち「相手の気持ちを考える」

目には見えない“相手の気持ち”を推し量ることが苦手な児童生徒は多い。特に相手が人であると、自分の気持ちばかりを優先させてしまう結果、人間関係のトラブルにつながることもある。しかし、相手がポニーとなると、「メロンはどんな気持ちなのかな?」と思いを寄せたり、「この野菜は食べるかな?」「食べながら鼻を鳴らしてるけど怒ってるの?」「風が強いけど寒くないかな」と教員に訊ねたりする児童生徒も多い。与えられた少ない情報から相手の気持ちを推し量ることは、人とのコミュニケーションや人間関係の形成においても重要なことである。メロンとのかかわりは、ポニーが表情や感情表現が乏しい動物だからこそ、相手の気持ちを考える力を高め、良好な人間関係を築く力を養うことにつながる。このように、“相手の気持ち”を考えるきっかけを作ってくれる存在として、大きな役割を担っている。

○個々の役割意識、責任感の涵養

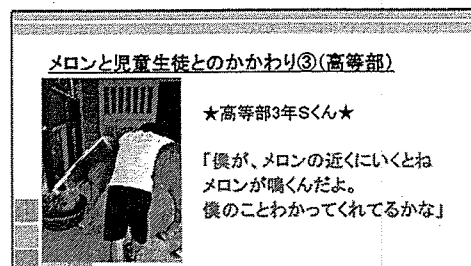
在籍者数 271 名というのは、特別支援学校としても大所帯であり、対象となる年齢も 6～18 歳と幅広い。高等部の生徒は基本的に毎日の昼の世話をクラス輪番で担当し、エサやりや水替え、ボロ取りなど行っている。中には、メロンの扱いに慣れて、ブラッシングや裏ほりを行える生徒もいる。中学部はニンジンあげや引き馬などでメロンとかがわり、高等部が行事等で不在のときは昼の世話を代わって行う。小学部は同じ広場で過ごしてニンジンをあげたり、時々乗馬や引き馬、世話の一部を体験している。また、高等部の生徒で組織される飼育委員会は近年その活動を広げ、他学部の学校間交流の際のメロンの補助や、新築馬房の名称募集、文化祭のメロンのコーナーのポスター描きや呼び込みを行っている。それぞれの年齢や実態に応じた形で役割があり、小・中学部の児童生徒も、高等部になったら毎日の昼の世話を担当することになる。— こうして迎える毎年 3 月。高等部 3 年生が卒業を前に最後のメロンの世話。そのときの記録ノートには、「メロン、今までありがとう」の温かい言葉。雨の日も風の日も世話をするという役割を繰り返したことで、「自分たちがメロンの命を預かっている」という責任感が芽生えてくるのである。生き物の温かさを心と肌で感じることができる、生きた学びの場となっている。

○「深谷はばたき特別支援学校」の宣伝キャラクター

本校を多くの人に知ってもらい、身近に感じてもらうことは、地域に開かれた学校づくりの第一歩である。本校への理解や認識が広がることで、障害のある児童生徒も地域での生活や就労がより豊かなものになり、活躍できる場が一層広がることになる。「はばたき＝メロンのいる学校」というイメージは徐々に浸透しつつあり、文化祭のメロンのコーナーにも多くの来場者が足を運んでくれている。メロンという特別な存在を介して本校を更にアピールし、共生社会実現への足掛かりとしていきたい。

4. パワーポイントでの発表内容

- 高等部の生徒とメロンのかかわりの一例
(相手の気持ちに寄り添う経験)
- 小学部～高等部の児童生徒とメロンの活動
- はばたきの宣伝部長・メロンの活動



5. 意見をいただきたいこと

本校は「学校」という場所でポニーを飼育していることもあり、その課題もまた独特な悩みが多い。今回は、以下の課題に対して、ご意見をいただきたい。

○ポニーが苦手な人(児童生徒、教職員)に対する工夫

学校は公共の場所であり、必ずしも動物や馬が好きの人ばかりが集まるわけではない。強制的にかかわらせるようなことは行っていないが、メロンの飼育にはなるべく多くの協力を得たいのも事実である。苦手な人と馬との距離を縮める工夫や取り組みはないか。

○多様な活動内容

現在行っている活動は、日常的な世話(エサやり、ボロ取り、水替え、ブラッシング、裏ほり、蹄油塗り)、引き馬、ニンジンあげ、乗馬である。他にも活動できることはないか。

○ポニーの高齢化に伴う健康管理

メロンは今年で 12 歳になる。まだ高齢というには早いかもしれないが、長く健康でいてもらうために、気をつけた方がよいこと等はなにか。